

富山・小杉流通業務団地No.20遺跡

こすぎりゅうつうぎょうむだんち

- 1 所在地 富山県射水郡小杉町青井谷字丸山
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)八月～十二月
- 3 発掘機関 富山県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 池野正男・酒井重洋
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は小杉町の北側に広がる射水平野に張り出した丘陵上に位置する。この丘陵地帯は、古代射水郡の生産拠点で、古墳時代から古



(富山)

代までの須恵器窯や製鉄関連の生産遺跡が集中している。なかでも小杉丸山遺跡は、飛鳥・白鳳時代に高岡市伏木の御亭角遺跡へ瓦を供給した瓦陶兼業窯である。また、丘陵部の集落の多くは、生産に関係した工人集落と考えられる。

調査は、右述の丘陵上において、小杉流通業務団地造成に伴う農用代替地に存在するNo.20遺跡の切土部分、標高二五m以上の約七〇〇㎡を対象とした。遺構は縄文時代と古代の土坑一八基、段状遺構一カ所、竪穴住居三棟が確認された。住居跡は斜面地にあるため、覆土のほとんどが流出しており、山側約三分の一が残っていた。木簡は、第五号住居の柱穴と考えられるP二から一点出土している。時代は八世紀後半。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「一」

・「二」

・「三」

・「四」

6.5×1.5×15 0.61

さいころ形木製品である。遺存状態

が良く、各面に「一」から「三」まで順に墨書される。形状は、断面正方形の方柱体で、両端を、錐形に加工する。

9 関係文献

富山県教育委員会『富山県小杉町流通業務団地No.20遺跡緊急発掘調査概要』(一九七九年)

(酒井重洋)

